

継続は才能なり

本校の朝は、通学バスの到着から始まります。
県内8路線のスクールバスと路線バスを使ってほとんどの生徒が同時刻に登校してくる光景は圧巻です。

その登校してくる生徒たちを、先生方と生徒会執行部、部活動の生徒が爽やかな挨拶で出迎えるのが伝統となり継続されています。この出迎える爽やかな挨拶を毎朝続けていることに赴任当初大変驚きました。

私は「継続は才能なり」ということばを、県教委勤務時代に縁あって入部させていただいた県庁剣道部で知りました。当時の剣道部長は、仮屋基美副知事で、超多忙な中にも毎週土曜日の稽古日は欠かすことなく率先して参加し稽古していた姿が大変印象に残っています。

普通「継続は力なり」ということばで、続けることにより力がつき向上し強くなるのであると、学習面や部活動でもよく使われます。

しかし、この「継続は才能なり」ということばは、続けるというその一点のみ、そのこと自体が素晴らしいのであるということを表しています。

私自身は、続けるという能力がありさえすれば、どんなことでも成し遂げられるのだということであり、どんな小さなことでも一つのことを続けるというのは、それほど偉大なことだと理解をしているところです。

先生方や生徒たちがやっている毎朝の挨拶も、続けるというそのことが大事であり、そのことにより登校してくる生徒たちは何かしら感じるものがあるにちがいません。

その他にも、2年担任 N 先生の毎日発行される「遊びをせんとや・・・」という日報や柔道部員の朝のトレーニング（甲陵坂を黙々と走る姿、その後の授業での睡魔と闘っている姿も）、今月から始まった放課後補習での自学自習に励む生徒の姿も、続けるというその一点において素晴らしいと感じています。明桜館の生徒は一つのことを粘り強く続けられる生徒であって欲しいと願っています。

今年度、本校の【目指す生徒像】として下の3つを掲げました。

- 自ら高い志を立て、その実現に向けて努力し続ける生徒
- 自らの人生と真剣に向き合い、挑戦し続ける生徒
- 自らの喜びを人と分かち合い、周囲にも心を配り続けられる生徒

